

平成 22 年 8 月 19 日

株式会社日本政策金融公庫

農 林 水 産 事 業

～ 担い手農業者の平成21年農業経営動向分析 ～

価格低迷で養豚が減益も、コスト高は一服

～ 口蹄疫の肉用牛への影響を今後注視 ～

日本政策金融公庫（日本公庫）農林水産事業が行った平成 21 年担い手農業者（対象 9,143 先）の経営動向分析で、天候不順などが稲作経営を、また長引く景気低迷による消費不振が果樹経営（カンキツ）を、卸売価格の低迷が養豚経営をそれぞれ圧迫し、減収減益に追い込んだことが明らかになりました。

平成 22 年の経営動向に関しては、口蹄疫が発生した宮崎県内の肉用牛・養豚経営への影響は甚大ですが、同時に発生地域外の肉用牛経営への影響にも注視する必要があります。

● **耕種部門は稲作や畑作、野菜がそろって利益率低下**

平成 21 年は燃油価格などが下落しましたが、稲作や北海道の畑作、露地野菜部門では天候不順により収穫量が減少したことなどから、利益率は低下しました。このうち、稲作（北海道・法人）の利益は 20.5%減になりました。

また、景気低迷による消費不振の影響から、特に嗜好品である果樹（カンキツ・リンゴ）部門では、減収減益となりました。中でもカンキツ（都府県・個人）は利益が 22.7%減と落ち込みました。

平成 22 年は、稲作部門では米の在庫が多い中で豊作が見込まれており、価格は軟調に推移することが見込まれるほか、野菜部門では春先の天候不順や夏の猛暑が経営に影響を与える可能性があります。

● **酪農部門は乳価引き上げで増収増益**

畜産部門では、飼料価格の下落に加え、平成 20 年度の乳価の引き上げにより酪農部門は増収増益となりました。また、肉用牛肥育部門は補てん金の交付により利益率は上昇しました。

一方、養豚、採卵鶏部門は卸売価格の低迷で大幅な減収減益となりました。特に養豚（都府県・法人）は輸入品の在庫高止まりなどから利益は 75.3%減となりました。

- 1 集計・分析対象先：農業を営む当公庫のご融資先のうち9,143先（個人：8,612先、法人531先）
- 2 対象経営部門（農業収入の第1位部門で区分）
 - ① 耕種10部門：稲作、北海道畑作、果樹（カンキツ、リンゴ、ブドウ）、露地野菜、施設野菜、施設花き、茶、キノコ（法人はこのうち果樹、露地・施設野菜（北海道）を除いた部門）
 - ② 畜産5部門：酪農、肉用牛肥育、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラー（法人はこのうち肉用牛肥育（北海道）、ブロイラーを除いた部門）
- 3 対象決算期：平成19年～21年(12月期決算)までの3ヵ年を経年比較

平成 21 年農業経営動向分析の概要

分析先の経営部門別内訳

経営部門	耕種													小計
	稲作		北海道 畑作	果樹			露地野菜		施設野菜		施設花き	茶	キノコ	
	北海道	都府県		カンキツ	リンゴ	ブドウ	北海道	都府県	北海道	都府県	都府県	都府県	都府県	
個人	1,127	1,345	957	155	96	45	192	419	54	626	445	270	84	5,815
法人	10	189	12					14		34	29	22	10	320
経営部門	畜産													合計
	酪農		肉用牛肥育		養豚一貫		採卵鶏	ブロイラー	小計					
	北海道	都府県	北海道	都府県	北海道	都府県	都府県	都府県						
個人	1,146	810	39	440	11	196	81	74	2,797	8,612				
法人	48	61		23	9	28	42		211	531				

以下、収支状況のコメントの中で、

- ① 利益とは、個人では経常利益（専従者給与控除前・税引前）+減価償却費、法人では税引後当期純利益+減価償却費
 - ② 利益率とは、上記利益を売上高で除した比率
 - ③ 売上高材料費比率とは、材料費を売上高で除した比率
- のことをいいます。

(1) 耕種

① 稲作

平成 20 年産の在庫過多、さらに消費者の低価格志向などから利益は前年を下回りました。

北海道は天候不順（作況指数 89）で単収が前年と比べ大幅に減少したため売上高が減少し、利益率は前年と比べ約 3 ポイント下落しました。

② 北海道畑作

6 月以降の天候不順により小麦、大豆などの収穫量が減少しましたが、交付金などにより個人の売上高は前年よりも 0.8 百万円増となりました。しかし、経費が売上高以上に増加したことから、利益は 1.0 百万円減少しました。

③ 果樹(個人のみ)

・カンキツ

平成 21 年は表年であったとともに、景気低迷による消費者の買い控えや供給過剰により価格が低迷し、売上高、利益は前年と比べそれぞれ約 1.0 百万円減少しました。特に利益率は前年と比べ 6.5 ポイント下落し耕種部門の中で最も下落幅が大きい結果となりました。

なお、前回の表年だった平成 19 年と比べても売上高、利益、利益率はともに下回りました。

・リンゴ

開花期の天候不順の影響から平成 20 年産と比べ出荷量は約 7%減少したほか、価格低迷により前年と比べ売上高は 0.8 百万円減、利益は 0.4 百万円減となりました。

・ブドウ

平成 21 年は、売上高、利益とも景気が悪化した平成 20 年とほぼ横ばい（売上高 13.3 百万円、利益 5.4 百万円）となりました。

④ 露地野菜

夏場の天候不順の影響を受けて、特に根菜類の価格は記録的な高騰をみせ、個人、法人とも売上高が増加しました。

ただ都府県では売上高の伸び以上に経費も増加したことから、利益は前年と比べ個人で 0.2 百万円減、法人で 0.9 百万円減となっています。

⑤ 施設野菜

主要品目のトマトは、夏場は天候不順によって品薄となったため高値が続きましたが、秋以降は入荷が重なり、価格が下落しました。また、イチゴは卸売数量が前年比 7% 減となったにもかかわらず、景気低迷により、単価は横ばいになりました。このため、個人の売上高はほぼ横ばいです。ハウスを加温するための燃料動力費は前年と比べ約 20% 減少したものの他の経費が増加したため、利益は北海道で 0.5 百万円減、都府県ではほぼ横ばいの 0.1 百万円増となりました。

⑥ 施設花き

切り花類、鉢物類の出荷量は前年と比べそれぞれ 4% 減、5% 減となりました。一方で、切り花の輸入量は過去最高の 11 億 8 千万本となり、加えて、景気低迷による消費者の低価格志向の強まりもあり、キクの単価が前年比約 7% 減となるなど価格は軒並み下落しました。

この結果、売上高は個人 0.6 百万円減、法人 3.2 百万円減となりました。しかし、売上高の減少以上に燃料動力費も減少したことから利益は、個人 0.3 百万円増、法人 0.4 百万円増となりました。

⑦ 茶

鹿児島県での低温被害や静岡県における早摘みによる荒茶生産量の減少（前年産比 10% 減）にもかかわらず、平成 21 年の緑茶消費量は前年比 5% 減とリーフ茶離れが続いていることから、荒茶価格は 10% 下落しました。

このため、売上高は個人 3.1 百万円減、法人 12.4 百万円減となりました。このうち、個人では利益が 1.4 百万円減となり、利益率は 2 期連続で下落しました。

⑧ キノコ

平成 20 年は、中国製冷凍ギョーザ中毒事件などを受けて、輸入量が減少したため、国産キノコの需要が高まり価格は上昇傾向で推移しました。

しかし、平成 21 年は輸入が底打ちし、シイタケやエノキタケを中心に国内生産量が増加傾向となったため、価格は下落に転じました。

このため、個人は売上高、利益ともに 0.9 百万円減となり、利益率は 2 期連続で下落しました。

また法人も売上高はほぼ横ばいとなり、利益は 5.1 百万円減、利益率は 4.1 ポイント下落しました。

(2) 畜産

① 酪農

飼料価格高騰の影響から平成 20 年度に 2 回、原料乳価が引き上げられた一方で、輸入チーズの下落を受けて北海道では平成 21 年 10 月にチーズ加工用の生乳が 1 kg 当たり 5～9 円引き下げられました。

しかし、総合乳価は前年よりも高かったことや売上高材料費比率が約 1～7 ポイント下落したことなどから、個人、法人ともに増収増益となりました。

特に売上高材料費比率の下落幅が北海道よりも大きかった都府県で利益率の改善が顕著となりました。

② 肉用牛肥育

景気低迷による消費不振の影響から肉牛の価格は総じて軟調に推移したため、肉用牛肥育経営安定対策事業（通称：マルキン）と肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業（通称：補完マルキン）が肉専用種、交雑種、乳用種の全畜種で通年発動されました。

これら事業の発動や売上高材料費比率の下落などにより、前年大幅に減少した利益は約 3～8 百万円増加し、利益率は約 3～6 ポイント上昇しました。

③ 養豚一貫

平成 20 年秋以降、輸入品の国内在庫が高止まり、また国産豚肉の供給量が大幅に増加したため、平成 21 年の価格は低迷し、10 月には調整保管制度が 6 年ぶりに発動されました。

このため、売上高は個人で約 14%減、法人で約 6%減となり、飼料価格は下落したものの、利益は個人で 4.5～7.0 百万円減、法人で 8.4～14.3 百万円減と非常に厳しい年となりました。

④ 採卵鶏

景気低迷で業務用の需要が落ち込んだことなどにより、平成 21 年は卵価が前年の約 10%安となりました。

このため、売上高は個人 13.4 百万円減、法人 49.7 百万円減と前年比約 10%減少し、飼料価格は下落したものの、利益は個人 1.7 百万円減、法人 4.5 百万円減と個人・法人ともに約 20%減となりました。

⑤ ブロイラー(個人のみ)

平成 20 年に輸入量が増加し、在庫増によって国産鶏肉卸価格は軟調に推移しましたが、在庫調整が進んだ結果、平成 21 年 9 月以降は概ね例年の在庫水準に戻り、卸売価格は堅調に推移しました。

このため、売上高は 106.5 百万円、利益は 9.7 百万円といずれも前年とほぼ同じ水準となりました。

平成21年農業経営動向分析(概要)

経営部門			個人経営				法人経営				概 要
			サンプル数	売上高	経常利益 +償却費	利益率	サンプル数	売上高	税引後 当期純利益 +償却費	利益率	
耕 種	稲作	北海道	1,127	→	↓	↓	10	↓	↓	↓	天候不順により前年に比べ大幅に単収が減少したことなどから、減収減益となった。
		都府県	1,345	→	→	→	189	→	↓	↓	作柄は平年並みだったが、在庫過多や消費者の低価格志向により利益は僅かながらも前年を下回った。
	北海道畑作		957	→	↓	↓	12	→	↑↑	↑↑	天候不順により単収が減少したが、交付金などにより個人の売上高は増加した。しかし、経費も増加したため利益は減少した。
	果樹	カンキツ	155	↓	↓	↓↓					H21年は表年で前年より単収は増加したことや消費者の買い控えなどから価格は低迷し、減収減益となった。
		リンゴ	96	↓	↓	→					天候不順による着果数の減少や一時的な大量出荷による価格低迷から、減収減益となった。
		ブドウ	45	→	→	→					売上高、利益ともに景気が悪化した前年から売上高、利益ともにほぼ横ばいとなった。
	露地野菜	北海道	192	↑	→	→					夏場の天候不順により特に根菜類の価格が高騰したことなどから売上高は増加したものの、利益率はほぼ横ばいとなった。
		都府県	419	→	→	→	14	→	↓	→	夏場の天候不順により一時的に価格は高騰したが、秋以降、価格は下落し、利益率は減少した。
	施設野菜	北海道	54	→	↓	→					主品目であるトマトは天候不順により夏場は高値が続いたが、秋以降、出荷が集中し価格は大幅に下落した。燃料動力費は前年と比べ減少したもののその他の経費が増加したため、利益は北海道では僅かながら減少し、都府県では前年並みとなった。
		都府県	626	→	→	→	34	↑	↑	→	なお、法人は燃油価格の下落により利益は増加した。
	施設花き	都府県	445	→	→	→	29	→	↑	→	花きの単価下落や出荷量の減少により売上高は減少したが、燃油価格の下落により利益率は上昇した。
	茶	都府県	270	↓	↓	↓	22	↓	↑	↑	荒茶生産量の減少と価格低迷により減収減益となった。
	キノコ	都府県	84	→	↓	↓	10	→	↓↓	↓↓	輸入が底打ちし、前年比ほぼ横ばいとなる中で、国内生産量は増加傾向であることから単価は下落し、減収減益となった。
畜 産	酪農	北海道	1,146	↑	↑	↑	48	↑	↑↑	↑	飼料価格高騰の影響からH20年度に乳価が2度引き上げられたことや飼料価格の下落によって、増収増益となった。
		都府県	810	→	↑	↑↑	61	↑	↑↑	↑↑	
	肉用牛	北海道	39	↑	↑↑	↑↑					補てん金の交付を受けたことや飼料価格の下落などを受けて、前年と比べ利益率は大幅に上昇した。
		都府県	440	→	↑↑	↑	23	→	↑↑	↑	
	養豚一貫	北海道	11	↓	↓↓	↓↓	9	↓	↓↓	↓↓	H20年の輸入品の大量在庫や国産豚肉の供給量の増加によって、H21年の相場は低迷した。このため、大幅な減収減益となった。
		都府県	196	↓	↓↓	↓↓	28	↓	↓↓	↓↓	
	採卵鶏		81	↓	↓	→	42	↓	↓	→	不況による加工需要の低迷などにより卵価はH20年の約1割安となったため、減収減益。
	ブロイラー		74	→	→	→					在庫の影響から価格は年前半は軟調に、年後半は堅調に推移した。このため、売上高、利益ともに前年並みとなった。

・前年比(売上高、利益+償却費) ↑↑ :30%以上増 ↑ :5~30%増 → :±5%増減 ↓ :5~30%減 ↓↓ :30%以上減

・前年比(利益率) ↑↑ :4ポイント以上増 ↑ :2~4ポイント増 → :±2ポイント増減 ↓ :2~4ポイント減 ↓↓ :4ポイント以上減

個人経営における平成21年収支状況

個人経営														
経営部門			サンプル数	①売上高(百万円)				②経常利益(税引前)+減価償却費(百万円)				③利益率(②/①)		
				20年	21年	増減額	増減率	20年	21年	増減額	増減率	20年	21年	増減ポイント
				A	B	B-A	((B/A)-1)*100	A	B	B-A	((B/A)-1)*100	A	B	B-A
耕種	稲作	北海道	1,127	22.7	21.9	▲ 0.7	▲ 3.3%	9.6	8.6	▲ 1.0	▲ 10.9%	42.4%	39.1%	▲ 3.3
		都府県	1,345	21.7	21.9	0.2	1.1%	9.0	8.9	▲ 0.2	▲ 1.8%	41.7%	40.5%	▲ 1.2
	北海道畑作		957	39.5	40.2	0.8	1.9%	13.1	12.0	▲ 1.0	▲ 7.7%	33.1%	29.9%	▲ 3.1
	果樹	カンキツ	155	11.5	10.5	▲ 1.0	▲ 8.5%	4.8	3.7	▲ 1.1	▲ 22.7%	41.8%	35.4%	▲ 6.5
		リンゴ	96	13.9	13.2	▲ 0.8	▲ 5.5%	4.6	4.1	▲ 0.4	▲ 9.2%	32.7%	31.4%	▲ 1.3
		ブドウ	45	13.6	13.3	▲ 0.3	▲ 1.9%	5.3	5.4	0.1	1.7%	39.2%	40.7%	1.5
	露地野菜		192	31.4	33.1	1.7	5.6%	10.1	10.4	0.4	3.9%	32.1%	31.6%	▲ 0.5
	施設野菜	北海道	419	25.6	26.2	0.6	2.3%	9.2	9.0	▲ 0.2	▲ 2.2%	35.7%	34.2%	▲ 1.6
		都府県	54	27.3	27.5	0.2	0.7%	7.2	6.7	▲ 0.5	▲ 6.7%	26.4%	24.5%	▲ 1.9
	施設花き	北海道	626	25.2	25.3	0.1	0.4%	9.0	9.1	0.1	1.3%	35.7%	36.1%	0.3
		都府県	445	30.1	29.4	▲ 0.6	▲ 2.1%	8.8	9.1	0.3	2.9%	29.3%	30.8%	1.5
畜産	茶	北海道	270	25.7	22.6	▲ 3.1	▲ 12.1%	8.0	6.6	▲ 1.4	▲ 17.9%	31.1%	29.0%	▲ 2.1
		都府県	84	35.6	34.7	▲ 0.9	▲ 2.6%	9.0	8.0	▲ 0.9	▲ 10.4%	25.1%	23.1%	▲ 2.0
	キノコ	北海道	84	35.6	34.7	▲ 0.9	▲ 2.6%	9.0	8.0	▲ 0.9	▲ 10.4%	25.1%	23.1%	▲ 2.0
		都府県	84	35.6	34.7	▲ 0.9	▲ 2.6%	9.0	8.0	▲ 0.9	▲ 10.4%	25.1%	23.1%	▲ 2.0
	酪農	北海道	1,146	61.2	66.6	5.4	8.8%	13.8	17.0	3.2	23.1%	22.6%	25.6%	3.0
		都府県	810	58.2	61.1	2.9	4.9%	12.5	15.9	3.4	26.9%	21.5%	26.0%	4.5
	肉用牛肥育	北海道	39	118.7	129.3	10.6	8.9%	1.1	8.7	7.7	718.8%	0.9%	6.7%	5.9
		都府県	440	102.7	105.3	2.6	2.6%	6.6	9.9	3.3	50.4%	6.4%	9.4%	3.0
	養豚一貫	北海道	11	96.4	81.9	▲ 14.6	▲ 15.1%	14.7	7.8	▲ 7.0	▲ 47.2%	15.3%	9.5%	▲ 5.8
		都府県	196	83.3	72.7	▲ 10.6	▲ 12.7%	12.2	7.7	▲ 4.5	▲ 36.8%	14.7%	10.6%	▲ 4.0
	採卵鶏	北海道	81	108.3	94.9	▲ 13.4	▲ 12.4%	8.9	7.2	▲ 1.7	▲ 19.1%	8.2%	7.6%	▲ 0.6
		都府県	74	106.4	106.5	0.1	0.1%	10.1	9.7	▲ 0.5	▲ 4.8%	9.5%	9.1%	▲ 0.5

法人経営における平成21年収支状況

法人経営														
経営部門			サンプル数	①売上高(百万円)				②税引後当期純利益+減価償却費(百万円)				③利益率(②/①)		
				20年	21年	増減額	増減率	20年	21年	増減額	増減率	20年	21年	増減ポイント
				A	B	B-A	((B/A)-1)*100	A	B	B-A	((B/A)-1)*100	A	B	B-A
耕種	稲作	北海道	10	41.2	37.3	▲ 3.9	▲ 9.5%	8.7	6.9	▲ 1.8	▲ 20.5%	21.1%	18.5%	▲ 2.6
		都府県	189	47.4	48.8	1.4	2.9%	6.9	5.9	▲ 1.0	▲ 14.0%	14.5%	12.2%	▲ 2.4
	北海道畑作		12	70.0	68.5	▲ 1.5	▲ 2.1%	9.6	13.4	3.8	40.1%	13.7%	19.5%	5.9
	果樹	カンキツ												
		リンゴ												
		ブドウ												
	露地野菜													
	施設野菜	北海道	14	88.0	91.5	3.5	4.0%	6.7	5.8	▲ 0.9	▲ 14.0%	7.7%	6.3%	▲ 1.3
		都府県	34	73.3	77.9	4.6	6.3%	4.7	5.6	0.9	18.5%	6.4%	7.2%	0.7
	施設花き	北海道	29	87.9	84.7	▲ 3.2	▲ 3.7%	4.4	4.8	0.4	10.1%	5.0%	5.7%	0.7
		都府県	22	115.1	102.7	▲ 12.4	▲ 10.8%	11.3	12.9	1.5	13.7%	9.8%	12.5%	2.7
畜産	茶	北海道	10	124.9	125.2	0.3	0.2%	13.5	8.4	▲ 5.1	▲ 38.0%	10.8%	6.7%	▲ 4.1
		都府県	10	124.9	125.2	0.3	0.2%	13.5	8.4	▲ 5.1	▲ 38.0%	10.8%	6.7%	▲ 4.1
	酪農	北海道	48	240.5	265.9	25.5	10.6%	33.5	45.1	11.6	34.8%	13.9%	17.0%	3.0
		都府県	61	130.8	140.7	9.9	7.6%	14.7	21.7	7.0	47.5%	11.3%	15.5%	4.2
	肉用牛肥育	北海道	23	295.1	300.6	5.5	1.9%	▲ 1.7	6.5	8.2	-	0.0%	2.2%	-
		都府県	9	157.9	149.7	▲ 8.2	▲ 5.2%	6.1	▲ 2.3	▲ 8.4	-	3.9%	0.0%	-
	養豚一貫	北海道	28	340.6	316.4	▲ 24.2	▲ 7.1%	19.0	4.7	▲ 14.3	▲ 75.3%	5.6%	1.5%	▲ 4.1
		都府県	42	500.5	450.7	▲ 49.7	▲ 9.9%	20.7	16.2	▲ 4.5	▲ 21.6%	4.1%	3.6%	▲ 0.5
	採卵鶏	北海道	42	500.5	450.7	▲ 49.7	▲ 9.9%	20.7	16.2	▲ 4.5	▲ 21.6%	4.1%	3.6%	▲ 0.5
		都府県	42	500.5	450.7	▲ 49.7	▲ 9.9%	20.7	16.2	▲ 4.5	▲ 21.6%	4.1%	3.6%	▲ 0.5
	ブロイラー													

注)増減額、増減率、増減ポイントはラウンドの関係で数値が合わない場合がある。